

## 議案第1号

# 令和元年度 事業報告

## 1、事業の概要

令和2年4月内閣府発表の月例経済報告によると「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある。」としており、「先行きについては、感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれる。また、感染症が内外経済をさらに下振れさせるリスクに十分注意する必要がある。」となっています。

一方、日本銀行札幌支店の金融経済概況によると北海道地域の景気は、「新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、下押し圧力の強い状態にある。」となっており、「観光は、急速に悪化している」、「個人消費は、弱い動きとなっている」、「鉱工業生産は、弱めの動きとなっている」、という状況であり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境も、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により大変厳しい状況にあります。

一方、北海道の雇用情勢は、改善していて、完全失業率は2.4%でほぼ全国平均となっており、有効求人倍率は、1.16で企業の人手不足は依然として継続しています。このように人手確保が厳しいことを背景に、令和元年度の当センターの派遣就業は、前年度を「712万円」上回る「7,186万円」の契約額となりました。一方、請負就業は、前年度を「1,358万円」下回る「2億0,701万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億8,534万円」を2.27%下回る「2億7,887万円」となりました。

**事業目標の達成状況**については、会員数では前年度の「697人」から「803人」と「106人」の増加となり、目標値である「779人」を大幅に上回りました。また、請負と派遣を合わせた契約金額も目標値「3億1,417万円」を「3,530万円」下回る「2億7,887万円」となりました。一方で、派遣就業延人日については、目標値の「12,956人日」を「112人日」下回る「12,844人日」となりました。

以下、令和元年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

## 2、事業実施状況

### (1) 会員数の増強

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標779人を大幅に上回る803人を達成しました。新たな社会奉仕会員制度の導入により退会会員の抑制が図られました。

年 度	目標数	会 員 数
平成27年度	740人	749人
平成28年度	890人	801人
平成29年度	850人	722人
平成30年度	760人	697人
令和元年度	779人	803人

- ① 全戸チラシ配布や街頭啓発を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携して、体験型出前入会説明会を3回実施し、27名の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 新たな社会奉仕会員制度の導入により会員の退会抑制を図り、前年度131名の退会会員を28名としました。

### (2) 適正就業の推進

一般企業等による受託事業については、国の「適正就業ガイドライン」に基づきその内容を精査し、請負契約が適当でないものについては、シルバー派遣事業への切り替えを進めました。

(受託事業)

令和2年3月末現在

区 分	受注件数	前年比	契約金額 (円)	前年比 (円)
公 共 事 業	100	▲3	44,233,727	7,424,172
一 般 企 業 等	670	▲157	102,481,448	▲17,044,135
個 人 ・ 家 庭	4,700	▲684	57,406,203	▲4,292,232
独 自 事 業	1	0	2,890,629	324,516
計	5,471	▲844	207,012,007	▲13,587,679

## (派遣事業)

令和2年3月末現在

区分	受注件数	前年比	契約金額(円)	前年比(円)
公共事業	2	0	3,873,566	▲85,179
一般企業等	69	21	67,989,947	7,206,723
計	71	21	71,863,513	7,121,544

## (事業契約実績)

年度別	元年度	30年度	29年度	28年度	27年度
受託事業	20,701万円	22,060万円	22,148万円	21,742万円	22,187万円
派遣事業	7,186万円	6,474万円	6,221万円	7,161万円	5,000万円
合計	27,887万円	28,534万円	28,369万円	28,903万円	27,187万円

- ① 公益社団法人として法令を遵守し、高齢者に適した就業を行うことは、社会的な責任であり、国の適正就業ガイドラインに基づき、その役割を果たしました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ センター内に就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により、迅速な情報提供に努め、新たな就業先を会員へ紹介しました。

## (3) 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか、適正就業を推進することにより、派遣事業の実績は、延就業人数では令和元年度目標値の12,956人を112人日下回りましたが、契約金額では前年度の6,474万円より712万円増加の7,186万円となり、今後も拡大が期待されます。

## (派遣就業延人数実績)

年 度	派遣人数
平成27年度	10,302人日
平成28年度	13,212人日
平成29年度	12,080人日
平成30年度	12,116人日
令和元年度	12,844人日

#### (派遣事業実績)

年度別	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
受注件数	71 件	50 件	51 件	56 件	44 件
契約金額	7,186 万円	6,474 万円	6,221 万円	7,161 万円	5,000 万円
就業延人員	12,844 人日	12,116 人日	12,080 人日	13,212 人日	10,302 人日

- ① 就業開拓員による市内民間企業や行政等への訪問によって、新たな就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会を確保しました。
- ④ 同一労働同一賃金制度への対応を準備しました。

#### (4) 財政健全化に向けた経営基盤の強化・改善

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成 27 年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

#### (補助金実績)

年度別	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
連合交付金	23,339 千円	23,739 千円	23,541 千円	23,381 千円	16,780 千円
市補助金	23,339 千円	23,739 千円	23,541 千円	23,381 千円	16,780 千円
合計	46,678 千円	47,478 千円	47,082 千円	46,762 千円	33,560 千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の上昇や消費税改正に対応する配分金の見直しを行いました。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土」作りは、採算性や作業工程の効率化に努めました。
- ⑥ 諸経費の節減を進めました。

#### (5) 安全就業と事故防止

傷害事故 2 件と損害賠償事故 8 件が発生しましたが、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の 5 項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを強化し、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集、安全宣言大会参加者を拡大し、常に安全旗を掲揚するなど、安全と事故防止のための諸行事への参加を促しました。  
**安全標語最優秀賞 「挨拶は、安全作業の 始業ベル」**
- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。また、保健師による健康講演会も実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

## 令和元年度事故概況

(傷害事故 2件)

(前年度 0件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	80	墓地草刈	墓地の側溝に足を踏み外し、足の小指骨折
男	66	墓地管理	墓地の階段で転倒しそうになり、ふくらはぎ肉離れ

(賠償事故 8件)

(前年度 5件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	74	屋内清掃	窓ガラス清掃の際に網戸サッシが破損。
男	76	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により車のガラスを破損。
男	78	機械草刈り	機械草刈り作業中、誤って灯油タンク下のパイプ切断。
男	72	機械草刈り	機械草刈り作業中、誤って灯油配管パイプ切断。
男	77	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により校舎の窓ガラスを破損。
男	77	剪定	剪定作業時の脚立で舗装を破損。
男	83	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により車のガラスを破損。
男	70	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により車及び住宅のガラスを破損。

## (6) 公益社団法人としての組織体制の強化

派遣事業の拡大に向けて臨時職員を採用したほか、会員による事務補助員も就業させ、組織体制の強化に努めました。

年度別	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
正職員数	5人	4人	4人	4人	4人
臨時職員数	9人	5人	5人	5人	4人
業務補助員数	1人	1人	1人	2人	2人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため、道央ブロック役員研修会に参加しました。
- ③ 事務局体制の強化のため事務局職員を増員しました。
- ④ 地区長、副地区長と連携して地区懇談会を開催しました。
- ⑤ パソコン等情報機器の整備により効率化に努めました。

## (7) 技術・接遇等の向上

会員のための視察研修会を開催したほか、刃物研ぎなどの技能講習会を行いました。

講習会名	開催日	会場	参加人数
伊達市S C視察研修会	6月26日～27日	伊達市S C	51人
新篠津村視察研修会	9月25日	新篠津村	43人
刃物研ぎ講習会	12月16日	センター研修室	8人
安全衛生研修会	1月24日	はやし	78人
福祉家事援助サービス講習会	2月13日	センター研修室	27人
公共施設管理接遇研修	3月4日(延期)	センター研修室	一人

## (8) ボランティア活動の推進

- ① センター事業の普及啓発に向けて、ボランティア活動を行う人材を確保し、JR駅周辺の環境美化やスポーツイベントの支援に取り組みました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しや灯油宅配の事業をワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

## (9) 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注拡大のために、新聞広告やチラシ配布を継続するほか、センターホームページを充実しました。
- ② 会員の増強や受注の拡大に向けて、市内スーパー等で街頭啓発活動に取り組みました。

## (10) 関係機関団体等との協力連携

江別市、北海道労働局、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センター、特に道央圏のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めたほか、シルバー人材センター未設置の隣接自治体である新篠津村と連携して、新たな事業を検討しました。